

ブドウ‘シャインマスカット’の果粒肥大促進のための摘心技術

ブドウ‘シャインマスカット’の長梢剪定による露地栽培において、開花始時に房先7～8節残して新梢先端を摘心する。その後伸びてきた副梢は摘粒時に着房節から基の節では5～6節残して摘心、房先の副梢は2節残して摘心する。7月以降の新梢管理は二次副梢(孫枝)は適宜もとから摘心する。このような新梢管理を行うことにより果粒肥大を1割程度促進することができます。

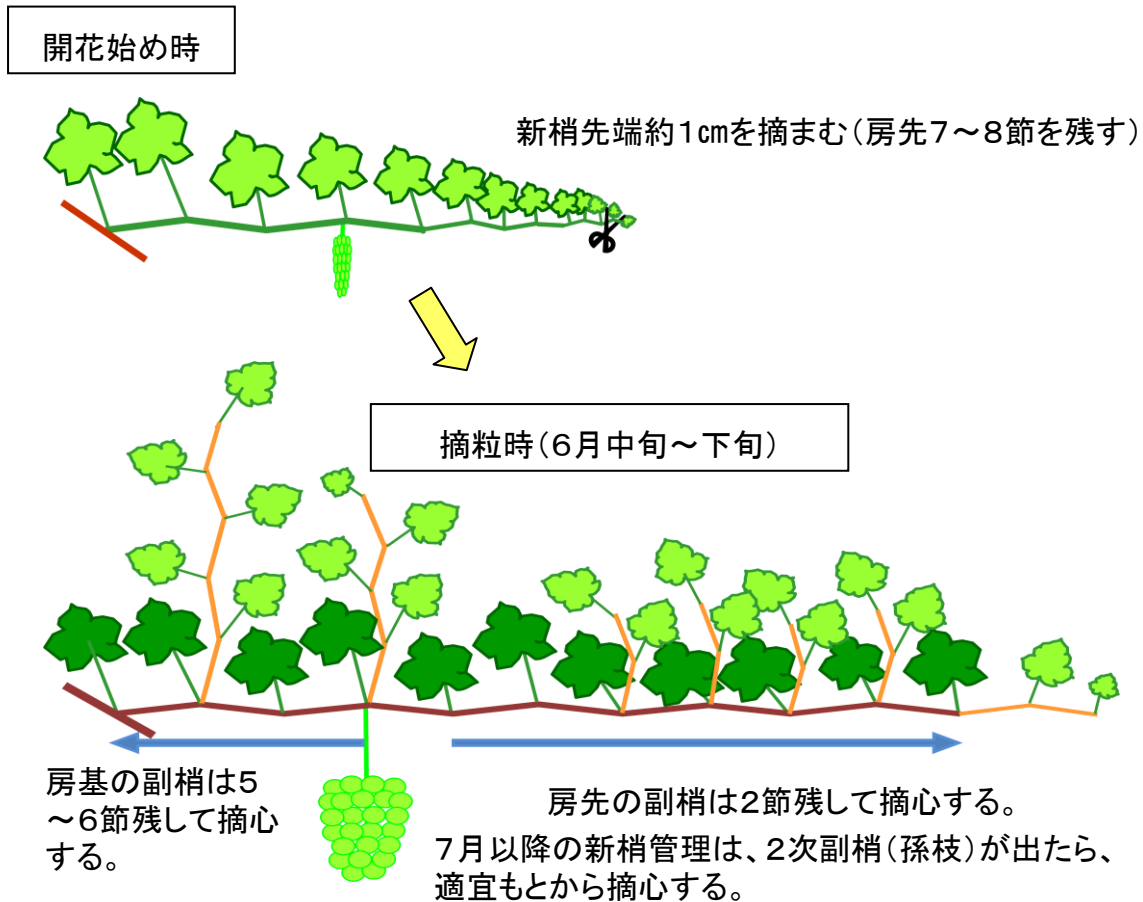


表1 収穫時の果実品質

年度	試験区	着房数 (房/m ²)	果房重 (g)	チャート ^y	粒数 (個)	10粒重 (g)	糖度 Brix(%)	酒石酸 (g/100ml)
2013年	摘心管理区	2.1	553.5	3.4	45.0	130.1	19.5	0.34
	慣行管理区	2.0	524.2	3.6	45.3	118.5	20.2	0.33
	有意性 ^z	—	ns	ns	ns	*	*	ns
2014年	摘心管理区	2.3	620.4	3.4	40.2	158.3	17.1	0.38
	慣行管理区	2.3	520.1	3.5	38.6	139.6	18.3	0.34
	有意性 ^z	—	**	ns	ns	**	**	**

z:有意性はt検定による(**:1%、*:5%水準で有意差あり)

y:山梨県果試作成のシャインマスカット専用カラーチャートを使用

※1:慣行管理区の新梢管理は、7月上旬に結果枝先端を房先10節で切り、副梢は房基2節、房先1節残して摘心した。

※2:本試験での植物生長調節剤の使用は、1回目処理として満開時にGA25ppm+CPPU3ppmを花房浸漬し、2回目処理として満開13～14日後にGA25ppmを果房浸漬とした。

